

## 50の冒険

- 開催日 2019年11月16日
- 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター【東京都渋谷区】
- ディレクター名 砂山 真一（によろ）

### ■キャンプのねらい

●50の冒険を通してさまざまな体験に触れる。

### ■同行スタッフ（キャンプネーム）

ねずみ、ニヒル

### ■活動内容

<午前・午後>

集合

アイスブレイカー  
化石発掘  
暗号を描いてみよう  
謎解きハイク  
焚き火おやつ

解散



葉っぱでじゃんけん。お題は「ぎざぎざの葉っぱ」「小さな葉っぱ」な



たがねとハンマーで石を割り、中に入っている化石を発掘。



子どもも大人も真剣！石の中からはどんな化石がでてくるかな？



カギとなるのと同じにおいの宝箱をあけると新たな暗号が！



炭火でマシュマロを焼いてクラッカーに挟んで「スモア」を作りました



ふわふわ、熱々のスモア。「おいしいいい〜」

### ■キャンプのエピソード

#### さまざまな体験を

13歳までにやっておくべき50の冒険という本を題材にプログラムが展開された今回の企画では、さまざまな体験があります。「視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚の五官を使う」「ハンマーやたがね、蝶番などの道具を使いこなす」「謎を解くために頭を使い、何度も試す」短い時間の中ですが、疑似的ではなく「楽しい本物の体験」の中にそれがちりばめられており、それは子どもたちが育っていく上で必要なことの一部ではないでしょうか。次回はどんな体験をちりばめて「50の冒険」を展開しようかとわくわくしています。

#### 本物の大切さ

化石発掘のプログラム中、ある子どもが自分で発掘した化石とお母さんが発掘した化石を見比べて、キラキラした笑顔をこちらに向けて「これって本物なんだね」と話しかけてきました。なぜそう思ったのか尋ねると「形や大きさがちがうからー！」と。きっとレプリカが出てくるのだと思っていたその子にとっては、「本物」の化石が出てきた喜びに加えて、その個性が実感となり、うれしさにつながったそうです。子どもたちに「本物」を提供する大切さを改めて感じた時間でした。